

令和8年度 市長とセットトーク意見交換要旨

開催日：令和8年6月23日（火曜日）14時00分～15時00分

開催場所：中央公民館

団体・グループ名：創心会五感リハビリ倶楽部 邑久

テーマ：瀬戸内市の介護事業所における課題（人・体制など）・家族の介護負担について

★意見交換要旨★

- ・認知症カフェなどのイベントに地域住民がより気軽に参加できるような周知やボランティア協力について、市としてどのような支援が可能か。

（健康長寿課）

地域の民生委員や福祉関係者が集まる「小地域ケア会議」でのPRを提案する。チラシの配布だけでなく、事業所の担当者が直接会議に赴き、活動内容や想いを説明することで、ボランティアの確保や口コミによる周知に繋がりがやすくなる。

（市長）

まずは認知症カフェのチラシをもっとわかりやすくしてはどうか。認知症の方と家族が気軽に参加してもらえることを明確化した方が参加者が増えると思われる。

また、行政の広報媒体（広報紙やSNS）では、これまで民間事業者の取り組みを扱わないという線引きがあったが、6月下旬から民間イベントのプロモーション協力を開始する予定である。登録制度を設けることで、行政としての公平性を担保しつつ、市の公式ツールでイベント情報を発信できる枠組みを整えていく。

- ・深刻な介護人材不足に対し、瀬戸内市としてどのような労働力確保の支援を行っているか。特に外国人労働者の受け入れや新たなマッチング手法について知りたい。

（健康長寿課）

「ゆめワークせとうち」では、就労を希望する市民とのマッチングを丁寧に行っており、人材確保を考えておられる介護事業所からの求人申込みも増えている。

（市長）

日本ITビジネスカレッジと繋がってはどうか。生徒の就職先としてよいのでは。

「タイミー (Timee)」のようなスポットワークの活用も有効である。実際に市内の農家で草刈りなどの業務で成果を上げており、介護分野でも「直接介護以外の周辺業務」を切り出すことで、新たな労働力を確保できる可能性がある。また、市が主催する採用マッチングイベントへの出展もぜひ検討してほしい。

- ・畑作業や庭の手入れなど、直接的な介護以外の補助を担うボランティアを募集したい。どのようにすれば地域と繋がれるか。

(市長)

市もボランティア人材の獲得には困っている。

共働き、定年引上げが影響しているのでは。ぜひ社会福祉協議会の「瀬戸内市ボランティア連絡協議会」に相談するなど連携をするのが良いと思う。

- ・3年前までは当事業所の稼働率が低く、運営を継続していくか判断を迫られる状況だった。認知症通所介護の単価の高さから利用を敬遠する声もあった。市内の通所介護事業の平均的な運営状況などが知りたい。

(健康長寿課)

経営状況は「介護サービス情報公表システム」で公開されているが、重要なのは他サービスとの差別化である。事業が力を入れている五感を刺激する専門的ケアや少人数制の個別対応といった、認知症対応型ならではの価値をPRすることで、「認知症の進行を遅らせた」と願う家族のニーズに応えることができると思う。

その他の参加者：創心会五感リハビリ倶楽部 邑久の柔軟な対応により、認知症の進行が抑えられていることや地域との交流が図られていることについて、発言があった。